

学校だより 第200号(4-5)

け や き

櫻



令和4年9月15日

横浜市立永田中学校
横浜市南区永田みなみ台7-1
TEL045-715-5511

「あなたの『〇〇の秋』は何でしょうか」

校長 永山 泰士

木陰ではさわやかな風を感じる秋がやってきています。今年は9月10日が満月で、「中秋の名月」でした。9月は「長月(ながつき)」とも言われます。秋は夜が長くなる「夜長月(よながつき)」からきているそうです。永田中学校では、本日から日暮れの時間に合わせて、完全下校時刻が17時30分になりました。さらに10月15日から2月14日までは17時完全下校になります。永田中学校の部活動は、夏を境に3年生から2年生への代替わりが行われ、新チームでの新人戦や発表会が秋から始まっています。

さて、世間では「読書の秋」「スポーツの秋」「勉強の秋」「食欲の秋」「芸術の秋」などよく言われます。これをお読みの方々におかれましては、「〇〇の秋」の〇〇にはどんな言葉が入るのでしょうか。私自身は、毎年この季節になると、「肉体改造の秋」なるものを宣言するのですが、「食欲の秋」を理由に「断念の秋」になってしまうことがここ数年続いています。

ところで、私は先日、自宅の電灯をLEDシーリングライトにしました。ここ数年で、街の信号機もLEDが普及し、車のライトもLEDが増えているようです。このLED(青色発光ダイオード)の研究で、数年前に3人の日本人研究者がノーベル物理学賞を受賞しました。その研究者とは赤崎 勇氏、天野 浩氏、中村 修二氏です。その中の一人、中村 修二氏が自著のなかで、人生で一番大切なキーワードとして「できない理由を探すな。どうしたらできるかを考えろ」を挙げています。中村氏は会社員時代に「青色発光ダイオード」の研究開発に携わることになるのですが、厳しい研究開発の環境においても、「できない理由を探す」ことなく、常に前向きに「どうしたらできるかを考え」て、偉業を達成したのです。

私たちは困難な場面に出くわすと、とかく「できない理由を探して」しまうことがあります。また、失敗をした時などには、「言い訳」ばかりが先行しまいがちです。失敗を2度と繰り返さないために「どうしたらよいのかを考えて行動を起こす」ことができないことがあります。それは子どもだけでなく、大人も同じことが言えるのではないのでしょうか。私もその一人かもしれません。しかし、これでは「いけない!」と改めて中村氏の言葉が教示しています。すべてのことを真摯に受け止め、常に前向きに捉えて、目標に向かって努力を続けていくことが、人として生きる上で一番大切なことであると考えます。生徒たちには、この秋という季節に「どんな小さなことでもいいから目標をもって、前向きにチャレンジしてほしい」と思っています。「あなたの『〇〇の秋』は何にするか」、ぜひ考えてみてください。

永田中学校では「合唱の秋」到来です。校舎のあちらこちらから歌声が響いています。生徒たちは心をつなげてハーモニーを奏でようとしています。あの歌、この歌、その歌が生徒たちの個性と共に「宝石が放つ光と音の響き」をシンクロさせ結んでいきます。きっと合唱コンクール当日は、生徒の誰もが今年度のけやき祭のスローガンである「Jewel 一人ひとりが輝く原石」となって、ピアノの調べと歌声を奏で、「よこすか芸術劇場大ホール」いっぱいに感動の嵐が巻き起こるものと期待しています。保護者の皆さま、どうぞ会場にお越しください。

私たち教職員も生徒、保護者、関係者の皆さまとのかかわりあいの中で、「謙虚」、「誠実」をモットーにして、教育活動に勤しみ、皆さまと共に「豊かな人たちが行き交う永田中学校」に進化させていけるよう努力をしていきたいと考えています。